

地域医療連携室 だより

宮城県立がんセンター
MIYAGI CANCER CENTER

平成19年11月1日発行



発行 地域医療連携室
TEL (022)384-3151
FAX (022)381-1169



テーラーメイド医療を目指して

副院長 片倉 隆一

宮城県立がんセンターの基本理念は、「患者さんの視点に立ち、良質かつ先進的医療を提供し、がん専門病院としての使命を果たします」です。日頃のがん治療を安全かつ着実にしながらも、一方で私たちには、常に先進的ながん治療を提供していく義務が課せられていると考えております。がんの治療は、

これまで組織診断を確定診断とし、経験的に最適とされる治療法が押しなべて行われてきました。ところが、がんの病態が遺伝子学的に検索されるようになり、今では同じ組織診断名の患者さんのがん組織でも、遺伝子検索を行うと異なった形質を持つことが分かってきました。この患者さんごとの微妙な相違を利用して、例えば薬物に対する治療効果の有無をあらかじめ知ることが可能になってきました。いわゆるテーラーメイド医療です。

当センターには、研究所が併設されています。昨年来、センター内にテーラーメイド医療に代表されるような、研究所の基礎研究成果を臨床にいち早く反映させるための組織の立ち上げが強く叫ばれるようになってきました。そして、今年4月ついに臨床研究部が設立されました。最初の業務としてスタートしたものがティッシュバンクですが、これは患者さんから摘出された組織を凍結化し保存することを、本研究部により自動的に組織だつて行うものです。まもなく、この凍結標本を用いテーラーメイド療法のための遺伝子検索が始まろうとしています。また、この臨床研究部では臨床データの統計解析や臨床治験のサポートなども行っていく予定です。

私たちは、常に先端医療を目指し、がん専門病院としての責務を果たすべく努力をしていくことで、貴施設の皆様のご期待にお答えし、さらに地域連携をより強固なものにして参りたいと考えております。今後とも皆様のご指導、御協力を宜しくお願い申し上げます。

なお、本号ではセカンドオピニオンの紹介をさせていただきました。こちらも地域連携上大切なことと考えておりますので、ご利用いただければ幸いです

セカンドオピニオンについて

当センターでは、事前の申込みによりセカンドオピニオンの提供を行います。
 セカンドオピニオンとは、主治医以外の意見を聞くことにより、患者さん御自身が治療方法を自己決定するのに役立てていただくものです。
 そのため、セカンドオピニオンでは治療・検査等は行わず、患者さんがお持ちになった診療情報提供書・レントゲンフィルム等の資料をもとに当センターの専門医が意見を申し上げます。
 なお、セカンドオピニオンは当センターでの治療や転院につながるものではありませんので、当初より当センターでの診察をご希望される場合は、その旨の紹介状をお持ちになって初診の申込みをお願いします。

担当医紹介



■消化器科
小野寺 博 義

本来の専門は肝胆膵の画像診断と超音波検診です。医療分野の細分化・専門化に伴って現在は肝疾患をメインに肝細胞癌の治療(TAE, PEIT, RFA, UFT-Eによる化学療法等)とC型肝炎に対するインターフェロン治療による発がん予防を主に行っております。
 また、慢性肝疾患の管理検診による肝細胞癌の早期発見にも取り組んでおります。超音波検診もライフワークとして継続しております。
 個人的趣味はアジアの民族学です。



■消化器科(大腸)
萱 場 佳 郎

大腸の検査、治療を担当しています。当科では年間2000例の大腸内視鏡検査、200例のポリープの治療を行っています。一般に大腸ポリープは、増大してくるとがんが見つかる率が高くなると言われています。しかし最近では稀ですが、小さなポリープでも既にがん化していて、外科手術が必要なものもあることが知られています。大腸ポリープや腫瘍の診断や治療方針で、もし不安や迷う点がありましたら、ぜひご相談ください。



■消化器科
鈴 木 雅 貴

胆膵疾患、特に胆嚢癌、胆管癌、膵癌についてのセカンドオピニオンを担当させていただきます。
 各々の癌の手術の可否に関する進展度診断、手術不能と考えられる場合の補助療法、また疼痛管理等につきまして、患者様、御家族にも充分納得していただけるような説明をしていきたいと考えております。



■消化器科
野 口 哲 也

上部消化管(食道・胃・十二指腸)の疾患について診断・治療を行っております。拡大内視鏡検査、超音波内視鏡検査など各種術前検査や内視鏡的粘膜切除・剥離術をはじめ、食道ステントや拡張術などの癌に対する内視鏡治療を行っております。また、進行胃癌に対する化学療法など、さまざまな診断・治療を行っております。診断や手術の適応、治療法など、迷われている点、不安を感じられる点、不明な点などお答えできればと思っております。



■血液内科
奥 田 光 崇

血液疾患のセカンド・オピニオン外来を担当しています。10年近くも前の話ですが、担当患者から突然「セカンド・オピニオンを聞きに東京の病院に行くので紹介状を書いてください。」といわれたときは、ひょっとして自分は信用されていないのではないかと落ち込んだものですが、いまや紹介する方もされる方も、全く普通の医療行為のひとつとなりました。白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫などの治療は、骨髄移植や分子標的療法なども含め日々進歩しています。標準治療とされるものはありますが、病型や年齢、合併症などによりバリエーションも大きく、治療方針に迷うことは少なくありません。私の知識とこれまでの経験を総動員してセカンド・オピニオンの期待に応えられるよう尽力したいと思います。どうぞご紹介ください。



■化学療法科
村 川 康 子

主に胃・大腸癌などの消化器癌、および原発不明癌に対する抗がん剤治療に関するセカンドオピニオンを担当しています。最近では分子標的薬などの新しい薬剤も多く開発され、治療法が多岐に亘り複雑となっております。
 当科では抗がん剤の治療効果を副作用も含めて十分に説明いたします。また、緩和ケア病棟を含む緩和的治療について説明することも可能です。



■呼吸器科
小 犬 丸 貞 裕

私は肺がんの内科的治療を中心に約30年間診療してきましたが、ここ十数年、がん告知の一般化、インフォームド・コンセントの普及、インターネットに代表される誰でもアクセス可能な情報量の増大など、がん診療を取り巻く環境は激変しました。それら情報の奔流に飲み込まれ右往左往する患者、家族も少なくありません。そこで急速に変化する肺がん治療につき、最新の根拠ある情報に基づきながら、分かりやすい説明が出来るように努めています。



■呼吸器外科
小 池 加 保 晃

呼吸器外科。がんになった患者と家族の方々が現実を受け入れたくないと思うことがあります。この様な時セカンドオピニオンが有力です。私の所に来られた方々は、自分の不運を訴える方、診断の間違えだと疑問を持つ方、どんながんでも最善の治療を受ければ必ず治ると信じている方、等いろいろです。殆どの場合、主治医の先生方の治療方針は間違っていないと思います。セカンドオピニオンは患者家族の方々に納得していただける良い方法だと思います。



■総合外科
椎 葉 健 一

私はがんセンターに着任してちょうど2年が経過しました。着任前は約二十年間、東北大学病院で胃癌、大腸癌、乳癌の診療、研究に携わって参りました。大腸癌とくに直腸癌の手術経験が豊富なため、当センターでは大腸癌を専門領域として活動しております。セカンドオピニオン外来では主に大腸癌の担当となりましたが、消化器癌全般に精通しておりますので、何でもご相談ください。



■外科
藤 谷 恒 明

胃癌を担当しております。「後医は名医」との言葉がありますように後から診療を担当する方が前医の経験が参考になりますのでよりの確かな判断が可能となります。しかし、今までの患者様の多くは既に様々な標準的な治療を受けており更に特別な治療を求めて訪れる方でしたので、現在受けている治療は最良であることを説明し納得していただいております。患者様の率直な考えが聞ける場として利用しつつ、ここでの経験を自分の診療にも役立てております。



■乳腺科
角 川 陽 一 郎

日本における乳癌の罹患率・死亡率はともに増え続けています。当センターでは乳癌の診断、初期治療(手術・化学療法・内分泌療法・放射線療法等)、再発後の治療を行っています。乳癌のできた場所や広がり、年齢、癌の性格、再発後の治療の状況などによりいくつかの選択肢がある場合があります。乳腺科に訪れるセカンドオピニオンの方に対しては、お知りになりたいことをよく伺った上で、なるべくわかりやすい説明を心がけています。



■泌尿器科
柄 木 達 夫

尿路性器癌の診断と治療が専門です。当科で最も多いのは前立腺癌で、以下膀胱癌、腎細胞癌と続きます。前立腺癌の根治的治療として前立腺全摘術や根治的外照射を積極的に行っています。前立腺全摘術の手術件数は県内でも常に1~2番目の多さです。浸潤性膀胱癌の場合、患者さんの年齢やP.S.に応じて術前に化学放射線同時併用療法を行い治療成績の向上に努めています。腎細胞癌の手術適応例には根治的腎全摘術や部分切除術を行っています。



■頭頸科(耳鼻いんこう科)
松 浦 一 登

頭頸部がんの治療では生命予後が最も重要ですが、併せて頭頸部機能の温存(摂食・嚥下、呼吸・構語、味覚・嗅覚などの機能と顔貌)も重要であり、当科での治療方針としてこれらの両立を高いレベルでおこなうことを目標としています。豊富な症例経験があり、特に喉頭温存手術や超選択的動注化学放射線療法は全国トップレベルの水準にあります。各々の患者さんの状況に応じた治療法についてコメントできると思います。



■婦人科
田 勢 亨

患者さんの病状と希望に沿った婦人科がん治療を行なうことを目指しています。日本産科婦人科学会専門医・日本臨床細胞学会細胞診専門医・日本婦人科腫瘍学会専門医・臨床研修指導医・東北大学医学部婦人科臨床教授などの資格を有しています。婦人科がんの診断・治療について最先端の知識・技術をもち、婦人科の「がん」でお悩みの患者さんやご家族の方々に十分なセカンドオピニオンを提供できると考えています。

外来新患診療体制表 平成19年11月現在

(宮城県立がんセンター)

| 診療科 | 曜日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|--------------|-------|---|---|---|---|---|
| 消化器科 | | ● | ● | ● | ● | ● |
| 内科 | 血液内科 | ● | ● | ● | ● | ● |
| | 循環器科 | ● | | | | |
| | 化学療法科 | ● | | | | |
| 呼吸器科 | | ● | ● | ● | ● | ● |
| 外科 | 乳腺科 | ● | | ● | ● | |
| | 外科 | ● | ● | ● | ● | ● |
| 整形外科 | | | ● | | ● | ● |
| 脳神経外科 | | ● | | ● | | ● |
| 頭頸科(耳鼻いんこう科) | | ● | ● | | ● | |
| 形成外科 | | | ● | | | ● |
| 婦人科 | | ● | ● | | ● | |
| 泌尿器科 | | ● | | ● | ● | |
| 放射線科 | | ● | | | ● | ● |
| 緩和医療科 | | | ● | ● | | ● |

診療受付時間：午前8時30分～11時00分までをお願いします。
TEL (022)384-3151(代) FAX (022)381-1169

センターからのお知らせ

◆宮城県立がんセンターセミナー

●第153回

- 演題：「疾患プロテオミクスによる新診断技術
肝細胞がんの優れた腫瘍マーカー」
- 演者：内田和彦先生
筑波大学大学院・人間総合科学研究科准教授
榊MCBI基礎研究所所長
- 日時：平成19年11月5日(月) 17:30～18:30
- 場所：宮城県立がんセンター 大会議室

●第154回

- 演題：「国立がんセンター東病院における血液・組織バンク」
- 演者：落合淳志先生
国立がんセンター東病院臨床開発センター
臨床腫瘍病理部 部長
- 日時：平成19年11月16日(金) 17:30～18:30
- 場所：宮城県立がんセンター 大会議室

プロテオミクスとは、タンパク質の種類・量・状態(修飾/分解)を網羅的に計測し、それらの総和から生命現象を記述することであり、最近では、その中でも疾患タンパク質やバイオマーカーを特定する疾患プロテオミクスが注目されている。血漿・血清タンパク質にはアルブミン・IgGなどが大量に含まれており、ng/mLオーダー以下で存在する診断価値を有するタンパク質をプロテオミクスで解析することは非常に難しい。また微量ペプチドはアルブミンなどに吸着(マスク)された状態で流血中に存在しており、バイオマーカーとして特定することは不可能に近い。我々は、血液中のタンパク質・ペプチドの情報からの病態の正確な評価を確立することを目指して、産官学で定量プロテオミクス技術開発、バイオマーカー探索、アッセイ系の開発を行ってきた。慢性肝炎・肝硬変・肝細胞がんにいたる病態について血清170サンプルを用いて、各サンプルを2次元HPLCによって1,152分画にわけ、すべてについて定量的MALDI-TOF MS解析を行い、疾患特異的に検出される低分子タンパク質(ペプチド)をMS/MSによって同定した。その結果、得られた新規細胞由来ペプチドバイオマーカーは、従来の腫瘍マーカーであるAFP、DCP(PIVKA ID)よりもすぐれた検出精度を有していることが明らかになった。

分子標的治療薬の出現により、がん治療の方法が大きく変わりつつある。新しい治療薬の開発において、実際のがん組織における遺伝子や蛋白質の変化ならびにその臨床情報を含めて管理し、これら患者検体を用いた医療開発研究を進展させることは今後ますます重要になることは明らかである。国立がんセンター東病院において血液・組織バンクの立ち上げを計画し、本年度秋より血液・組織バンク設立を目的に、現在倫理審査を申請している。今回、この血液・組織バンクの全体像を紹介し、バンク立ち上げおよび運用上の問題点を含め紹介する。



交通案内

- J 宮城交通バス** 東北本線名取駅下車、バスまたはタクシーを利用
R 名取市福祉バス 名取駅西口から「県立がんセンター」行きを利用
自家用車 「げんき名取号(愛島線)」
 名取市役所前から「北目上原」行きを利用
 仙台南インターからは、国道286号バイパス経由
 県道仙台・岩沼線を利用 (所要時間約15分)

相談支援センターのご案内

- 受付時間 (面談) 午前10時から12時
(電話) 午前8時30分から午後5時15分まで
- 面談場所 がんセンター 相談室 (1階)
- 電話 (022) 384-3151 (代)
- FAX (022) 381-1169

宮城県立がんセンター
〒981-1293 宮城県名取市愛島塩手字野田山47の1
電話(代表) (022)384-3151 FAX(総務班) (022)381-1168

□ゴマークの3本の柱は「治療、予防、研究」を、上の「まる」は患者さんを表わしています。3本の柱が、患者さんを支えるという意味です。